

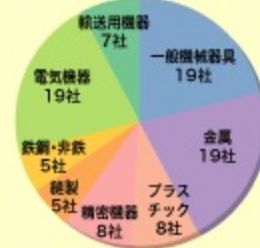
2005.11

● 調査時点 平成16年12月調査（11月末時点）

● 対象企業 150社

● 回答企業 90社

（一般機械器具19社、金属19社、プラスチック8社、精密機器8社、縫製5社、鉄鋼・非鉄5社、電気機器19社、輸送用機器7社）

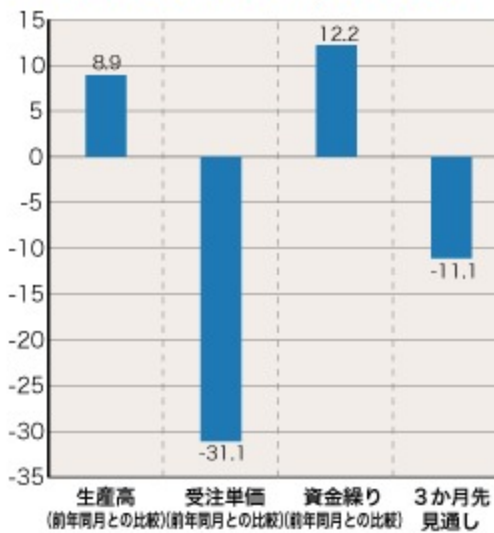


対前年同月比

全業種での生産高は若干のプラスであるものの、数値的には前回調査結果（9月末時点）より大きくダウンしている。また、受注単価についても依然としてマイナスであり、厳しい内容となっている一方、資金繰りについては前回までの生産高が好調だったこともあり、プラスに転じる結果となった（グラフA）。

また、業種別で見ると、「縫製」でマイナス、「一般機械器具」「プラスチック」で生産高は横ばいとなっており、他のプラスであった業種でも、数値は前回より悪化傾向にある。また、受注単価が全業種においてマイナスもしくは横ばいであり、厳しいコストダウンが強いられていることが窺える。なお、資金繰りについては「金属」「電気機器」の2業種がプラスに転じている（グラフB）。

■全業種の受注動向（グラフA）



3か月先見通し

マイナスが5業種と前回同様に厳しい見通しとなっており、発注動向における外注に関する厳しい見通し結果も踏まえると、予断を許さない状況になってきている（グラフB）。

■業種別の受注動向（グラフB）

